

ページ 行記号	誤	→	正
IV-16	$A_{-1} \cos\left(\omega t \pm \frac{4\pi}{3d} Z\right)$		$A_{-1} \cos\left(\omega t + \frac{4\pi}{3d} Z\right)$
IV-16	$A_{-2} \cos\left(\omega t \pm \frac{10\pi}{3d} Z\right)$		$A_{-2} \cos\left(\omega t + \frac{10\pi}{3d} Z\right)$
IV-31 (7-48)	$r_{\min}^2 / L^2 = \sigma_{22} - \frac{\sigma_{12}^2}{\sigma_{11}} - \frac{\sigma_{12}}{L}$		$r_{\min}^2 / L^2 = \sigma_{22} - \frac{\sigma_{12}^2}{\sigma_{11}}$
IV-31 (7-49)	$\theta_{\text{int}}^2 = r_{\min}^2 / L^2$ を削除		
IV-31	以下の文章を削除		

さて上記の意味するところはQ-磁石のところでの楕円は十分に横長に寝ていることを意味する。つまりQ-磁石のところでは焦点を結び非常に小さいスポットを作っているような場合には使えない。具体的にはビーム径をスクリーンモニターで見ながらQ-磁石の電流値の関数としてビーム径を計測すると図7-8に示す双曲線が得られる。これより代表値としてのビーム径及び焦点距離を求める式(7-50)によってエミッタンスを得ることが出来る。